

特集／昔の暮らし力  
平成28(2016)年3月1日発行  
頒価／1,000円(送料別途)

発行

大阪ガス(株)  
エネルギー文化研究所(CEL)  
〒541-0046  
大阪府大阪市中央区平野町4-1-2

発行人

小西池 透

企画・制作  
奥田 浩二

編集人

湯原 公浩

編集

(株)平凡社

アートディレクション&デザイン  
岡本一宣デザイン事務所

校正

(株)アンテナバンドン

DTP制作

(有)ダイワコムズ

印刷・製本

(株)東京印書館

お問い合わせ窓口

大阪ガスビジネスクリエイト(株)  
TEL 06-6205-4650  
FAX 06-6205-4759  
CEL@ogbc.co.jp

Research Institute for  
Culture, Energy and Life  
©2016 OSAKA GAS CO., LTD

※禁無断転載複製 ※本誌掲載の寄稿文、インタビュー、レポートなどの内容は必ずしも大阪ガスの見解を表すものではありません。本誌バックナンバーのコンテンツやエネルギー文化研究所(CEL)の活動内容は、インターネットホームページでご覧いただけます。

## 昔の学びを未来につなげる

大阪ガス(株)エネルギー文化研究所  
所長

### 小西池 透

Konishiike Tooru

「昔はよかったなあ」——。人生の経験を積み重ねた諸先輩方が時に口にするあのセリフ。これを、時代の流れについていけない自らに対する嘆きの表れだと思っている人たちも多いのでは？ ところがそれは大きな間違い。“昔”に学ぶべきことがどれほど多いことか、そのことを今号の編集を通じてあらためて認識することができました。

何よりも昔の暮らしには、その時々々の厳しい時代を生き抜いてきた「生活と結びついた逞しい知恵」があります。暮らしのベースとなる街並みや路地には、豊かに生きていこうという切なる願いや、コミュニティを大切に作る工夫がありました。伝統芸能には、いわゆるしきたりや作法がつきものですが、「どうしてこんな面倒くさいことを」と思われる所作のなかにも、合理的で無駄のない動きが息づいています。そして市民思想として広まった心学は、「先も立ち、我も立つ」という共生の倫理を説き、それは地域社会や企業が掲げる理念として現代でも十分に通用します。

「変革に向けての飽くなきチャレンジ」にも学ぶべき多くの示唆があります。300年以上も続く老舗企業の歴史は、実はたゆまぬ変革の積み重ねでした。続けることは自らを変えていくこと、そして新しいものを常に創造していくことであるという考え方は、今も企業経営の根幹であります。

「次代を担う人材を育てること」、これこそ私たちが最も学ぶべきことかもしれません。能楽に見られる、個々人の目標達成状況に合わせた育成手法、促成栽培ではなく長期的な視点で育てていこうという息の長い取り組みは、教育界や産業界が是非とも実践すべきではないでしょうか。

“昔”という言葉には、「いにしえ」に「むかう」という意味があると言われています。この言葉の意味を、「向うのは過去だけではなく未来にも」と捉えれば、“昔”は未来へ向うスタート地点だと言えます。前号では未来のスマート社会を展望しましたが、まさにスマートの原点が“昔”にはあるのです。そうした“昔”の知恵や教えを確実に伝えていくことが、私たち現代人の大きな責務だということを、今一度肝に銘じたいと思います。